

小平市

産業振興基本計画

〈概要版〉



小平市

平成30(2018)年3月

1. 策定の趣旨と位置づけ

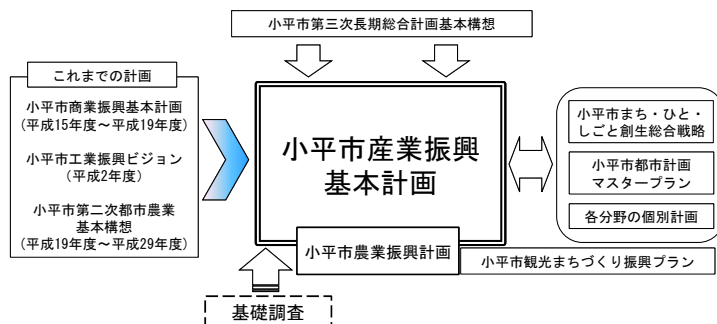
■ 策定の趣旨

市内産業は、7つの駅を拠点に小売業、飲食サービス業等が商店街を形成し、農業においては、都市の強みを活かした都市農業として、それぞれ地域とともに発展してきました。さらに、製造業を中心とした大規模事業者も、雇用の創出等において地域経済の活性化に広く貢献しています。

一方、宅地化の進行や情報技術の発展に伴う産業構造の変化などから、工場の移転や規模の縮小、個人商店の廃業や農地の減少など、市内産業をめぐる課題も多く抱えています。既存の産業資源を活用しながら、さまざまな産業の部門間連携によって、市内産業全体の活性化を図るため、小平市産業振興基本計画（以下、本計画という。）を策定します。

■ 計画の位置付け

本計画は、小平市第三次長期総合計画基本構想（平成18年度～32年度）の中の「活力ある産業の展開をめざす」分野の計画として策定するものであり、関連する様々な分野の計画と整合、連携を図ります。



■ 計画期間

平成30（2018）年度から平成39（2027）年度までの10年間です。なお、期間内においても、必要に応じて見直しを行うことがあります。

2. 小平市の概要

■ 産業構成

民営事業所数は概ね横ばいで推移しており、業種別で最も多いものが「卸売業、小売業」であり、次いで「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」です。「不動産業、物品賃貸業」や「医療・福祉」、「サービス業（他に分類されないもの）」は増加傾向にあり、「建設業」や「製造業」、「卸売業・小売業」は減少傾向にあります。

■ 製造業

事業所数の割合では多摩地域の全体の割合よりも低いにもかかわらず、従業者数の割合では多摩地域よりも高くなっています。「ゴム製品製造業」、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「情報通信機械器具製造業」の3業種で製造業全体の正社員・正職員の80%以上、市内産業全体の正社員・正職員の20%以上を占めており、小平市の雇用を支える上で大きな役割を果たしているといえます。

■ 商業

年間商品販売額は、平成9年の1,477億円をピークとして減少傾向にあり、平成26年には1,085億円とピーク時の7割程度にとどまっています。

■ 観光

小平グリーンロードや都市農業を活かした農業体験、オープンガーデンといった、既存の農空間や緑地空間を活かした観光が盛んに行われています。また、小平市はブルーベリーの経済栽培発祥の地としても知られています。

■ 農業

高度成長期に伴う開発需要により、農地の宅地や工業用地等への転換が増加しています。また、農業の担い手の高齢化や後継者不足等により、さらに多くの農地がなくなることが懸念されていますが、近年は農業・農地の多面的機能が評価されつつあります。

3. 小平市の産業の現状

■ 事業所と市民の関係

関係1 就労について

事業所：事業所の規模にかかわらず人手不足が深刻化
市民：女性の就労意欲が高い

関係2 商業・商店街振興について

事業所：事業所としての商店は衰退傾向
市民：商店街の発展・振興による買い物の利便性向上に期待

■ 事業所と地域社会の関係

関係1 社会貢献活動について

事業所：社会貢献活動に関心を持っている市内の事業所が多い
地域社会：市内の事業所に対してボランティア活動や防災などでの地域貢献を希望

関係2 市内の飲食店について

事業所：事業所周辺の飲食店に関する情報について従業員のニーズあり
地域社会：飲食店に関する情報発信が不十分

関係3 市内農産物について

事業所：小平産農産物への従業員のニーズが高い
地域社会：農家による従業員への直接販売等の販路開拓の可能性

■ 市民と農家の関係

関係1 農産物について

市民：地産地消による安全な農産物を求めている
農家：直売所の活用等による地産地消の更なる展開の可能性

関係2 農地との関係性について

市民：緑や農地と共存する住環境に強い愛着
農家：住宅に囲まれた都市農業ならではの課題

■ 産業振興のポイント

ポイント1 産業相互間の結びつきを強め、産業分野を横断する関係性から理解する

ポイント2 産業振興という枠を超えて、まちづくりを含めた広い視野からの対策を行う

ポイント3 さまざまな主体と連携することにより、スケールメリットを活かす

4. 将来像と基本方針

■ 目指すべき将来像

産業とくらしが共生し、
“しょく(職・食)”あふれるまち こだいら

産業振興を推進するため、事業所、従業員、住民、地域など様々な立場の人々がつながり、生産の場である産業と、人々のくらしが共生し、“職”(=経済活動や仕事、雇用、技能など)と“食”(=農産物・特産品の生産、消費や食の楽しみなど)の両面から経済的・精神的な豊かさあふれるまちを目指します。

基本方針1 雇用や所得・税収を生み出す基盤となる産業振興

基本方針2 住む人・働く人の暮らしを支え、豊かにする産業振興

5. 産業振興の目標

目標1 雇用を確保し、地域の所得を増やす

就労支援や創業支援によって働く場を増やし、労働の需要と機会のマッチングを図ることにより、創業や就労を希望する市民のニーズを実現するとともに、人手不足の解消に努めます。また、働く人の所得を増やし、豊かな経済活動を実現することによって、税収の増加を目指します。

目標2 市内産業の生産性の向上

市内には、売上高の停滞・減少や人手不足など、厳しい状況に置かれている中小企業も少なくありません。そうした中小企業に対して、きめ細やかな支援を行い、積極的な経営の取組を促して生産性の向上を実現します。農業についても、経営基盤を強化し、農業収入の向上を目指すために、農業振興計画を本計画の部門計画として策定して計画的な農業支援を実施します。

目標3 特徴を生かした産業間連携の促進

大企業と市内の中小企業との関わりを密にし、企業のニーズや経営動向の把握に努めながら、地域への定着を促進することで、安定的な税収の確保を目指します。また、企業のCSR・CSVや従業員の市内消費、地域活動への参加等を通して、企業と市民との連携による地域活性化を目指します。

農業についても、都市農業の優位性を活かした農業経営を進めるとともに、農商工連携による付加価値の高い商品を生み出し、6次産業化を推進します。

目標4 賑わいを生み、交流と消費を活性化

様々な人が行き交う場所としての商店街を活性化するために、商店の事業継続を後押しし、新規開業を促進します。市内の地区ごとの特徴を活かした消費と交流の活性化により経済の市内循環を促進し、市外への消費の流出を抑制します。これらを通じて、コミュニティの拠点としての商店街の賑わいを生み出し、「生活街」へと転換していくよう支援します。

目標5 まちの魅力に気づき、PRしたくなる観光まちづくり

小平市に住む人・働く人が地元の資源に関心を向けることによって、新たな魅力に気づく仕掛けや機会を増やします。また、様々なメディアを通して小平市をPRすることによって、市外からさらに人が集まる街をめざします。そのために「小平市観光まちづくり振興プラン」に基づき、いっそう街の魅力を高める取組を進めます。

目標6 緑と農地と共存する、暮らしやすいまちを実現する

緑と農地と共存する環境を維持しながら、暮らしやすい、そして働きやすいまちを実現できる産業振興を目指します。

6. 取り組むべき課題

課題1 稼ぐ力の向上

事業所が存続し投資や消費さらに税収につながるためには、事業利益が出る必要があります。農家についても、企業の経営が求められています。企業や農家の特徴に応じたきめ細やかな支援を行うことで、積極的な経営を行い、生産性を高めていくことが求められます。

さらに、企業従業員によるさらなる消費を促すことで、市内産業の活性化につなげることができると考えられます。また、企業の様々な動向を逐次把握し、適切な施策を実施することは、大企業の撤退を防ぐためにも必要となっています。

企業が地域と関わる機会を創出し、地域住民との顔の見える関係を構築するとともに、企業と市の交流を密にし、企業の地域に対するニーズや動向を把握し、適切な施策を実施する必要があります。

課題2 雇用の維持・創出

市内での就労機会をさらに増やし、職住近接の環境を実現することは、働く人の長時間通勤の負担を軽減することができ、ワーク・ライフ・バランスの実現につながります。

それと同時に、市内で働く人が増えることは、市内の事業所の人手不足の解消となり、企業活動の活性化にもつながります。その結果、地域での雇用機会が創出され、生産・消費の両面で産業の活性化が期待できます。

課題3 賑わいの創出

賑わいを創出するためには、賑わいの担い手となる人材の存在が欠かせません。意識調査によると、まつりやイベント、食べ物に対する市民のニーズは一定程度あり、小平グリーンロードやブルーベリーなど市民がPRしたいと思う観光資源も存在します。人と人が交流する場を市内で創り出せば、集まった人によるモノ、サービスの消費が生まれることが考えられます。

これによって、商店の廃業を防止し、新規開業を促進して、商店街の活性化につなげることが求められます。

また、小平グリーンロードをはじめとする観光資源を活用することで、他地域にはない魅力を発信し、市外からの集客力を高めることも必要です。

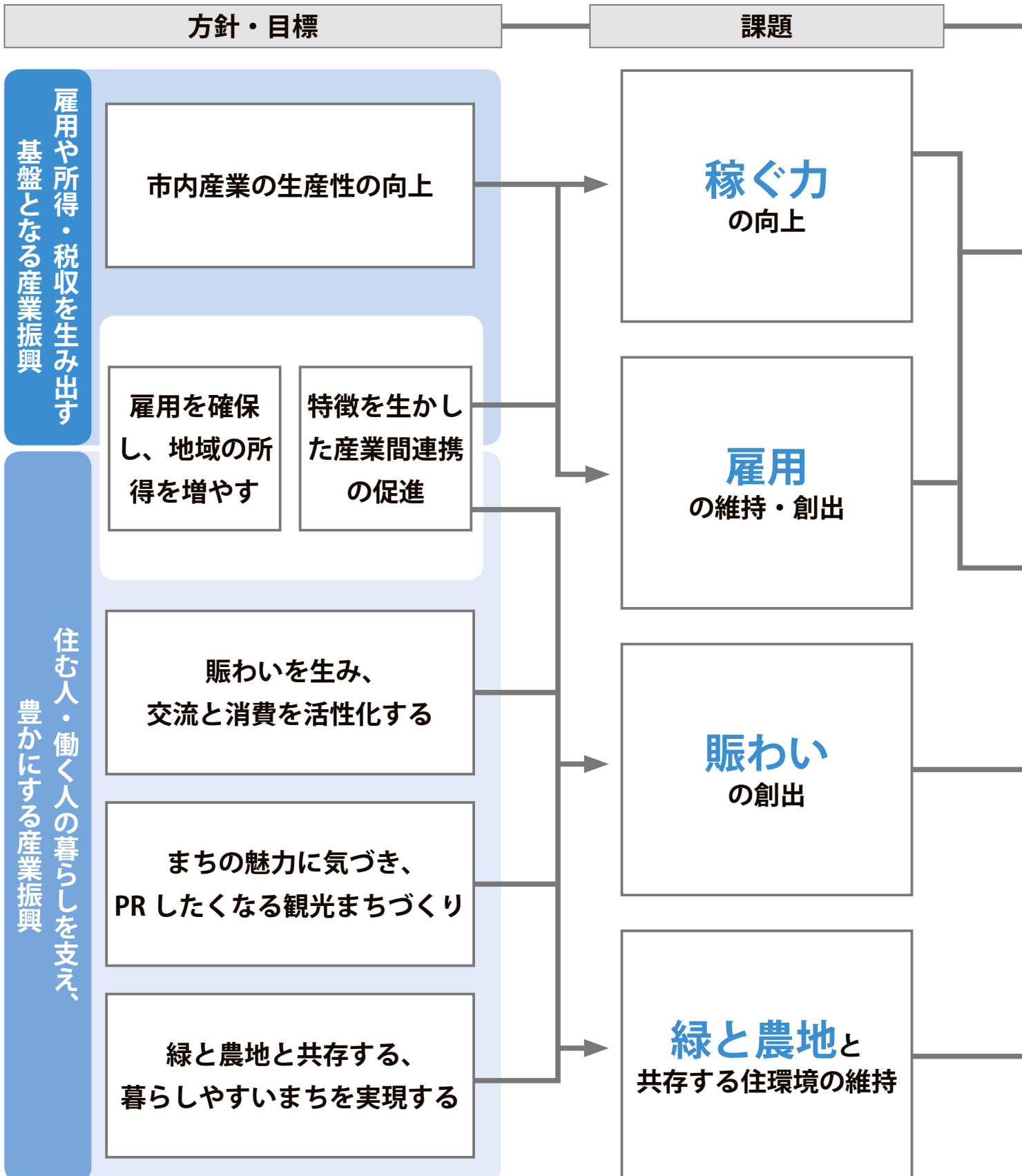
課題4 緑と農地と共存する住環境の維持

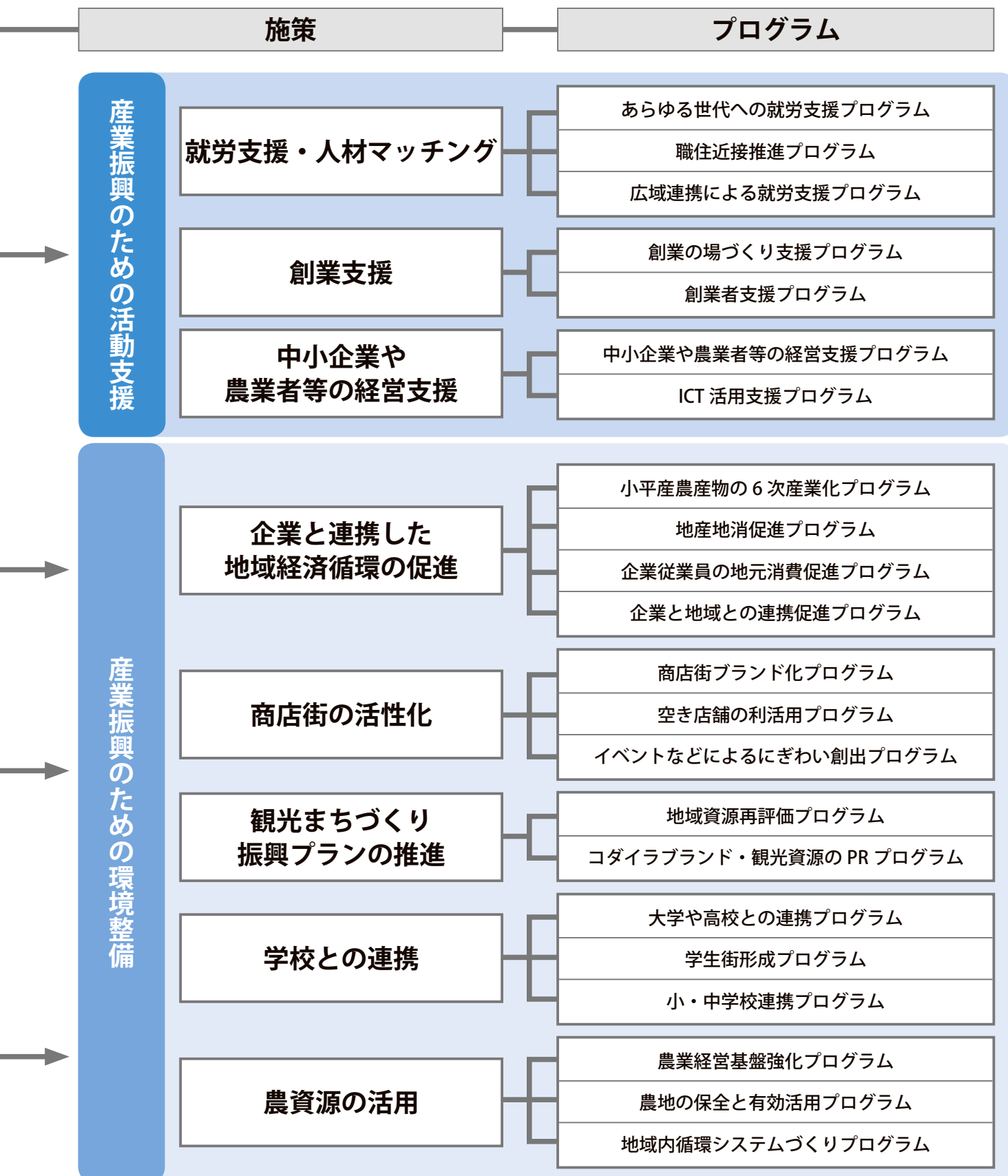
小平市は、小平グリーンロードをはじめとする緑が豊かで、農地と住宅地が混在する地域構成となっています。基礎調査の結果から、多くの市民や事業者が緑と農地と共存する環境に愛着を持ち、価値を見出しています。

また、防災や観光の面からも、農地や緑地の存在意義や期待は大きいものとなっています。緑や農地と共存する住環境の維持は、市民や事業所の小平市に対する満足度を高め、新たな住民・企業の誘致につながって、小平市の持続的発展に寄与すると考えられます。

7. 計画の体系図

これまで検討した産業振興の方針・目標、産業振興の課題をふまえて、施策を産業振興のための活動支援、産業振興のための環境整備に分けて検討しました。そうして考えられた具体的な施策と、産業振興の方針・目標、および課題との関係は、下の体系図のようにまとめられます。





8. 産業振興プログラム

産業振興のための活動支援

施策1 就労支援・人材マッチング

施策の方針

働く意欲がありながら就労していない女性やシニア層を含む潜在的労働ニーズを充足し、企業側の人手不足を解消するために、人材に適した職をマッチングする仕組みを整備します。

• あらゆる世代への就労支援プログラム

- ①あらゆる世代へのスキルアップ研修の実施
- ②若年層への就労支援のための就職サポート
- ③コミュニティビジネス（CB）、
ソーシャルビジネス（SB）の支援
- ④多様な保育サービスの充実

• 職住近接推進プログラム

- ①コワーキングスペースの活用

• 広域連携による就労支援プログラム

- ①近隣自治体と連携した就労支援
- ②インキュベーション施設等の共同利用



コワーキングスペースすだち

施策2 創業支援

施策の方針

創業意欲のある人たちが事業機会を得やすくするため、金融機関や教育・研修機関等が協力しながら、経営のノウハウ等を提供します。また、コミュニティビジネス（CB）やソーシャルビジネス（SB）など、地域のニーズに対応して問題解決を図るための新規開業を支援します。

・創業の場づくり支援プログラム

- ①チャレンジショップ支援
- ②新産業の創業支援

・創業者支援プログラム

- ①セミナー、相談窓口の開設
- ②コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス
関連セミナーの実施
- ③創業のための小口融資のあっせん



創業塾

施策3 中小企業や農業者等の経営支援

施策の方針

市内の事業所の多くを占める中小企業や、農業者を対象に、生産性を向上させて経営基盤を強固にすることで、収益の向上や事業承継しやすい環境整備を行います。

・中小企業や農業者等の経営支援プログラム

- ①経営相談窓口の開設
- ②後継者育成支援
- ③近隣自治体と連携した経営支援

・ICT活用支援プログラム

- ①ICT活用のためのセミナー、相談窓口の開設

産業振興のための環境整備

施策1 企業と連携した地域経済循環の促進

施策の方針

市内の消費需要を流出させないために、市内に立地する企業と地域のつながりを強化し、地域内での経済循環を促進します。

小平産農産物の6次産業化プログラム

- ①異業種間連携による小平産農産物の6次産業化

地産地消促進プログラム

- ①学校給食での小平産農産物の利用
- ②直売所での農産物販売促進
- ③食育のための農地の活用

企業従業員の地元消費促進プログラム

- ①企業の福利厚生サービスとの連携
- ②イベントを通じた情報提供

企業と地域との連携促進プログラム

- ①CSR・CSVによる地域との連携促進
- ②ビジネスマッチングの機会づくり



小平夏野菜カレーの日



市内企業によるCSR活動

施策2 商店街の活性化

施策の方針

個々の商店街の商圈の特性を把握し、各商店街の個性を高め、活性化を図ります。また、コミュニティの拠点となる生活街としての活動について支援します。

商店街ブランド化プログラム

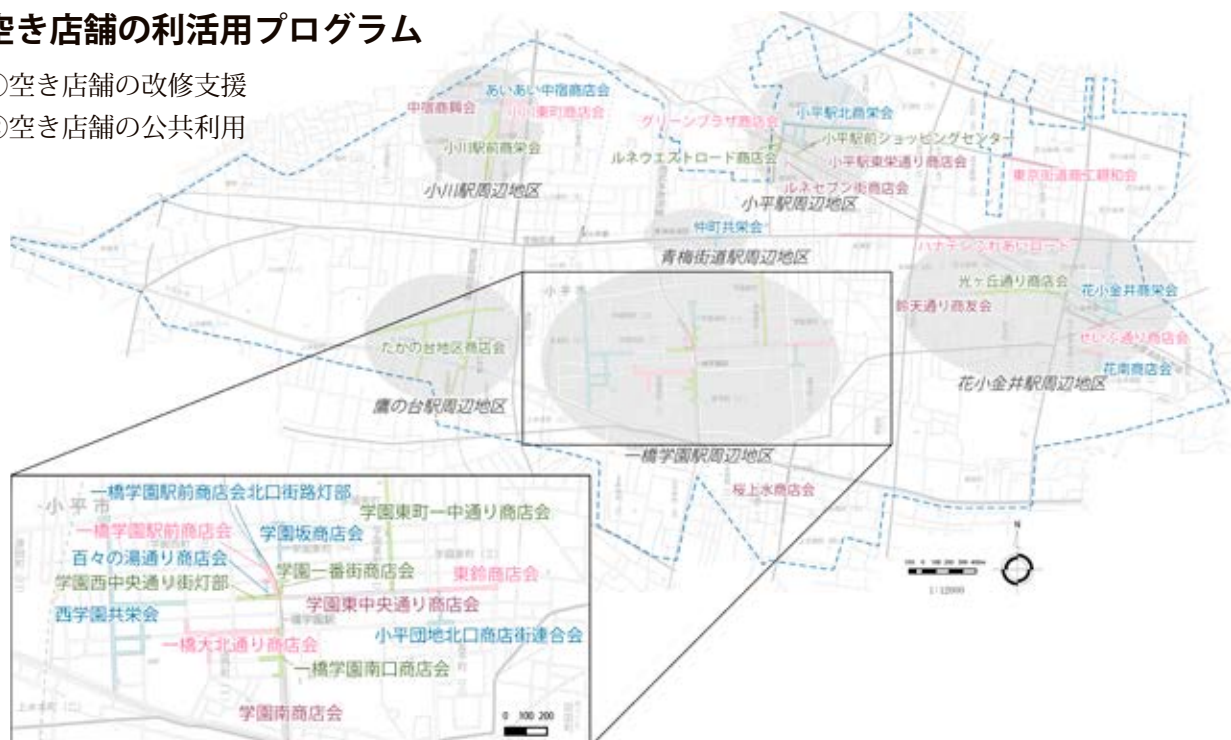
- ①商店街の個性化
- ②商店会の組織力強化等
- ③公共交通機関を活用した回遊性の向上

空き店舗の利活用プログラム

- ①空き店舗の改修支援
- ②空き店舗の公共利用

イベントなどによるにぎわい創出プログラム

- ①商店街でのイベントの実施



施策3 観光まちづくり振興プランの推進

施策の方針

「都会から一番近いプチ田舎」をコンセプトに掲げた小平市観光まちづくり振興プランに基づいた施策を推進します。

・地域資源再評価プログラム

- ①既存の観光資源の活用
- ②農空間の活用
- ③新規観光ルートの開発
- ④シェアサイクルの活用

・コダイラブランド・観光資源のPRプログラム

- ①コダイラブランドのPR
- ②SNSによる観光情報発信
- ③映画やアニメの舞台の誘致



こだいら観光まちづくり協会

施策4 学校との連携

施策の方針

市内の事業所におけるインターンシップの受け入れ促進等を通じて、大学等と地域との連携を図り、商店街やまちの活性化、市内消費の拡大を図ります。

・大学や高校との連携プログラム

- ①インターンシップの受け入れ支援
- ②学校と商店街との連携
- ③地元の大学等の特長・専門性の活用

・学生街形成プログラム

- ①市内での滞在時間を増やす環境整備
- ②市内居住の促進

・小・中学校連携プログラム

- ①市内の事業所や農家の見学
- ②商店街のイベントと学校の連携



市内大学生による青空市場「こだマルシェ」

施策5 農資源の活用

施策の方針

市内の農業者の経営基盤を強化するとともに、農空間を維持しながら農資源を活用するために、農業振興計画を作成し、それに基づいて以下のプログラムを実施します。

・農業経営基盤強化プログラム

- ①補助金等の活用
- ②担い手の確保

・農地の保全と有効活用プログラム

- ①市民への情報発信

・地域内循環システムづくりプログラム

- ①直売所の拡充
- ②農業体験を通じた啓発活動
- ③地産地消に向けた流通方法

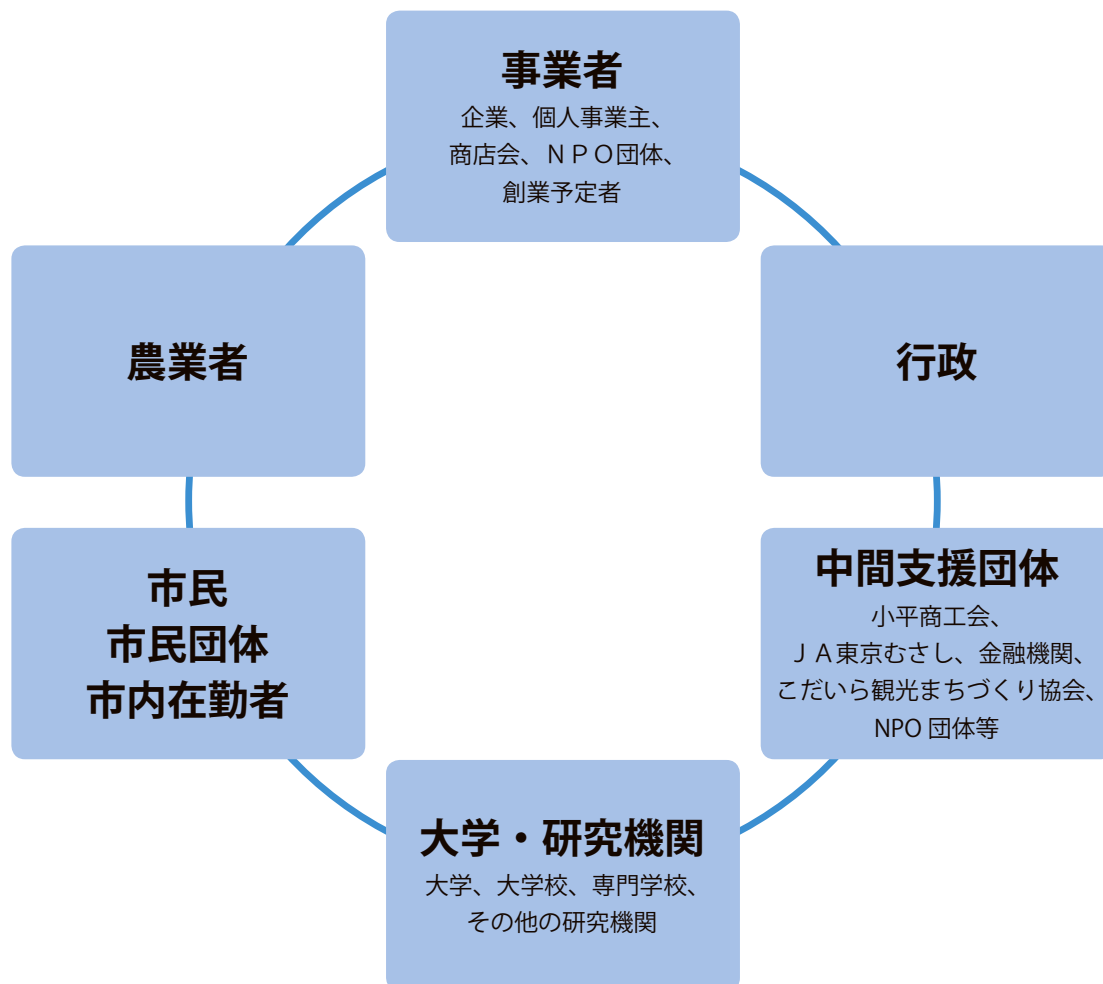


消費者交流会

9. 産業振興基本計画の推進

■ 産業振興の担い手

本計画は、市が進行管理にあたり、施策の推進は「事業者」「農業者」「市民・市民団体」「大学・研究機関等」「中間支援団体」「行政」の各推進主体が連携して、主体的な取組を行っていくことで、計画の円滑な推進、施策の広がりを図ります。



■ 計画策定の体制と経緯

計画策定にあたっては、学識経験者、各産業有識者、公募による市民からなる小平市産業振興基本計画検討委員会を設置しました。

また、計画策定に向けた事務局として小平市、多摩信用金庫、公立大学法人首都大学東京の三者連携により策定業務を進めました。

平成28年度に市内事業者の経営状態や課題、経営実態のほか、市民の皆様の購買行動や市内産業に対する認識、農業を営まれている方の市内農業の振興に対する意見などを調査分析した基礎調査報告書をまとめました。

小平市産業振興基本計画 平成30年3月発行

小平市 地域振興部 産業振興課

〒187-8701 東京都小平市小川町2丁目1333番地

TEL 042-346-9534 / 電子メール sangyoshinko@city.kodaira.lg.jp